



～年間聖句～「だから、キリストと結ばれる人はだれでも、新しく創造された者なのです。古いものは過ぎ去り、新しいものが生じた。」コリントの信徒への手紙Ⅱ 5章17節

## One&Only

学校長の重枝です。この「Sense of Mission」の巻頭言を担当しています。よろしくお願いします。

私の学校教育方針の肝は、「異質のたし算を生みやすい教育環境をつくる」ということになります。異質や多様なヒト・コト・モノとの関わりは、大きなたし算を生みます。そのためにも、受け入れる力である柔軟性が大切だと思っています。この柔軟性は、今の社会が求めている力です。特に同質よりも、異質のたし算は、大きなたし算となります。それは、丸ごと「たし算」されるからです。異質を受け入れるマインドは、いじめ防止や、社会が求める力にもつながります。

例えば、音楽科のランチタイムコンサートに普通科の生徒が聞きに行く、バレー部の県大会決勝を全校応援する、お互いを認め合い、受け入れる習慣は、必ず自身の成長につながります。

そして、やはり、最上位の目標は「自律的学習者にする」ことです。つまり「自分で決める」「自分たちで決める」ということです。全ての教育活動は、この最上位の目標から筋を通します。学習の取組、進路の選択、行事の取組、ルールメイキングなど、みなさんが、主体性と協働性をもつようにしなくてはならないと思っています。それを育むことで、「社会で活躍できる人」にしていきます。

私は、本校に5年前に赴任した際、「過去をリスペクトし、未来に責任をもつ」と所信表明で話したことを忘れていません。「過去をリスペクト」ということに関して、当時、この学校が大切にしている言葉は何かを探ってみました。これは、校訓のようなものではなく、日常の学校生活の中に普段使いされるものです。しばらくして、「大切なひとり」という言葉に出会いました。先生方も気に入っているような感じを受けました。この言葉の定義は「自分の存在意義を認識する」ということです。そのことを日常の教育実践に結びつけることが大切だと思いました。それは難しいことではなく、例えば「凜ちゃんを探せ(いいところ探し・ありがとうカード)」の取組や、私たちが日常的に友だちに「ありがとう」や「ごめんなさい」を言えることが、一番つながる実践になると思います。

私は、この「大切なひとり」につながるマインドをセットするために、毎年、パワーフレーズを発信しています。これまでのパワーフレーズを振り返ってみると・・・

2021「自分よし・相手よし・みんなよし」「ひとりにもなれる・ひとつにもなれる」

2022「つながれば・ひろがる」

2023「Love&Leadership」

2024「成長はたし算」

2025「チャーミングなファーストペンギン」

もちろん本年度も考えました。そのフレーズは、タイトルにある「One&Only」です。なぜこの言葉にしたかという・・・

昨年度、音楽科の卒業生代表の方と話していた時、その方が・・・

(音楽科卒業生)「重枝校長、ジャズの演奏後、拍手する時、どんな掛け声をして拍手するか知っていますか？」

(重枝)「知らないなあ」

(音)「“One&Only!” って叫びながら拍手するんですよ」

(重)「自由に自分らしく演奏するから、唯一無二って言うのか」

(音)「そうです。他のはいらねーよ、他とは違う、みたいな意味もあるそうです」

(重)「自分の存在価値観を認識する“大切なひとり”や、他者の足を引っ張る必要がないというマインドセットにもつながる感じがするな。生徒たちに“One&Only”の言葉を発信して、自分らしく大丈夫というマインドをセットしたいな」

これが、今年度のパワーフレーズにした理由になります。

(学校長 重枝 一郎)